

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所〔担当：山本・澤村〕

TEL：0853-22-6904

FAX：0853-24-3342

令和7年度 病害虫発生予察情報 技術情報第3号

令和7年9月1日

島根県病害虫防除所

トマト・ミニトマト トマトキバガの発生状況について

フェロモントラップにおける雄成虫誘殺数が過去2か年と比較して増加傾向にあり、今後トマト等で被害が拡大する恐れがあります。現地では発生状況の把握に努めるとともに、適切な管理及び防除をお願いします。

1 現在の発生状況

- 1) 農業技術センター(出雲市)の施設栽培トマトほ場周辺に設置しているトマトキバガのフェロモントラップにおける雄成虫誘殺数が4月以降継続して多く、特に6月第2半旬の誘殺数が急増した(図1)。6月～7月の合計誘殺数は134頭(令和5年：3頭、令和6年：91頭)と、過去2か年と比較して最も多い。
- 2) 本県における本種の発生は、令和5年7月20日に性フェロモントラップにおいて雄成虫1頭の誘殺を初確認した。県内現地ほ場における農作物への被害は令和6年4月に県西部で初確認し、その後は県内全域において本種の被害を確認している(令和7年8月29日現在)。
- 3) 中国地方1か月予報(8月31日～9月30日、広島地方气象台8月29日発表)によると向こう1か月の気象は本種の発生に助長的であり、今後さらに被害が増加する恐れがある。

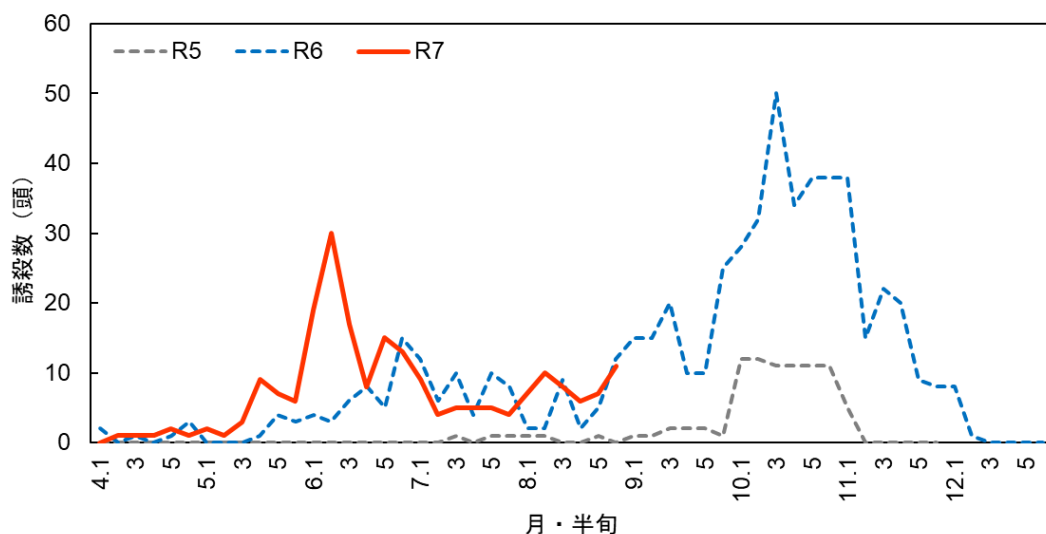


図1 フェロモントラップによるトマトキバガ雄成虫の誘殺数

2 防除対策および防除上の注意事項

- 1) 施設栽培ではハウス開口部に防虫ネットを被覆するなど、成虫の侵入防止に努める。
- 2) 本種による食害痕はハモグリバエ類の被害と似ているため、加害種をよく確認した上で薬剤を選定する（図4）。
- 3) 被害葉や被害果実のは場から持ち出し、野外に放置せずに土中深くに埋却するか、ビニル袋に入れて一定期間密閉し成幼虫を死滅させるなど、適切に処分する。
- 4) マルチ等の資材に幼虫や蛹が寄生している場合があるため、施設栽培では蒸し込み処理後に資材を搬出する。
- 5) 薬剤防除にあたっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション散布を行う。薬剤の使用にあたっては、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項を遵守する。
- 6) 最新の農薬登録情報は、農林水産省農薬登録情報提供システム(<https://pesticide.maff.go.jp/>)で確認する。

3 資料



図2 トマトキバガ成虫



図3 トマトキバガ蛹



図4 トマト葉の食害痕（赤丸内に幼虫が見える）



図5 トマト果実の食害痕
（出典 農林水産省植物防疫所）